

# だいな訪問看護ステーション

大田原市紫塚3-2-633-112

## 施設アピール

大田原市内のほぼ中心部に位置し、同敷地内にはクリニック、ケアホーム、居宅介護支援事業所（二か所）シヨートステイ、通所介護、通所リハビリ、訪問介護事業所が併設されています。また生活支援体制整備事業地域交流サロンの場を提供しています。

法人内で関わった利用者には、多職種間の連携が行われ、タイムリーに、細やかなサービス提供ができています。

「タンザニアキリマンジャロ山麓の子供たちに目に見える支援を！」平成三〇年に院長が「NPO法人風に立つ雉」を設立し、募金活動を行っています。



風に立つ雉（きじ）  
近藤医師が、キリマンジャロマラソンをきっかけに、支援協力が始まりました。

## 施設の役割や特徴

併設のクリニックからの依頼が多くあり、その強味は、目の前に或いは電話の向こうに主治医が常にいるということです。

瞬時に情報提供↓指示があり対応できており、また他の病院の主治医であっても医師間で連携が図られて、迅速な対応ができています。

こんなことがありました。訪問看護と当法人内のシヨートステイを利用していらっしゃる方が、施設に到着と同時に状態の低下がみられました。偶然私達も居合わせたことで主治医に報告し、急遽外来診察、指示により直ちに入院し軽快退院することができました。事無きを得て本人はもとより、ご家族からも感謝の言葉をいただきました。ワンストップサービスの良さだと思えます。

## ケアマネジャーとの連携でちょっと気になったこと

ほとんどありませんが、利用者様の処置が必要な場合、個性とその時の状況により時間がかかる方、そうでない方があります。トラブルにはなりませんでしたが、



管理者 高瀬恵美子様  
(看護師)  
利用保険割合  
医療保険：2割  
介護保険：8割

その事を理解していただくのに時間を要したことがあります。処置の様子をモニタリングすることも情報共有できることの一つではないでしょうか。

## ケアマネジャーに期待すること

地域住民の方へのACP（人生会議）の普及やコロナ禍の影響でこれから増々在宅生活を望まれる方が増えてくると思っています。主役は利用者様です。どう支援したらその人らしく望む生活ができるのか一緒に考え、それぞれの立場から情報を提供し、共有して「あなたたちで良かった」と言われる支援者になりたいですね。

## 関わった事例で心に残ったこと

〇ターミナル期の女性事例①  
控え目で我慢強い性格で、逆にご主人は自分で決めた通りにして欲しいという想いが強く、それに



静かに、おだやかな口調で、訪問看護の思いを語ってくれました。

対して娘さんが受け入れられない場面があり、父と娘が喧嘩になることが何度かありました。しかし、院長と訪問看護師が「本人・家族が希望することはできるだけ叶えてあげましょう」という姿勢で支援を続けました。約2か月間、点滴の管理を続け、家族支援も行いました。ご主人と娘さんの協力を得て、最期は穏やかに看取ることができました。

## 〇喧嘩の絶えない夫婦事例②

本当はご主人をこよなく愛する奥様です。昔ご主人から深く傷つけられた出来事がトラウマになり、ぎくしゃくした生活が続きました。本人は息子さんと同居しましたが、訪問看護師に対してモヤモヤをやくようになり、頻りに訪れる奥様のいない時間を見計らって訪問しました。

その結果、状態が悪化することなく支援することができましたが、タイミングが必要でした。

在宅支援は、本人だけでなく様々な家庭事情を抱えた人々への支援です。本人に寄り添うことを心掛けるながら、家族内での個別の対応も必要だと思えます。